

## 社会学部

### I 2012年度認証評価 努力課題課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

### II 2015年度 大学評価委員会の評価結果への対応

#### 【2015年度大学評価結果総評】

社会学部における教育課程・教育内容への取り組みは特に意欲的である。2014年度から4つの指針のもと、カリキュラムの順次性・体系的性がより明確化されたことは高く評価できる。また、教養教育と専門教育の充実のみならず、国際性を涵養するためのコースが設置され、さらには2014年度からは、キャリア形成を促すことを目的とした科目群が新設されたことも、高く評価できる。ただし、多様なコースとプログラムの設定は、学生にとっては選択肢の多さとなり多分に迷いが生じる可能性があるのだが、教員による履修指導が充実しており、その点は問題ないと思われる。成績評価においては、講義科目、演習や外国語等少人数科目における「A+」評価の割合に基準が設けられており、他学部にとっても参考となる取り組みとして、高く評価されるものである。今後、GPCA活用の検討、セメスター・クォーター制の併用やセッション制に伴う課題の検討などが予定されており、学部教育のさらなる向上に期待したい。

#### 【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

大学評価委員会の評価については、これまでの本学部の取り組みの方向性がおおむね評価されているものと判断し、現状の方向性を維持しつつ、引き続き本学部における教育研究の質の向上に向けて努力していく。

2016年度の取り組みとして、学部に内閣に教学改革・人事構想委員会を発足させ、カリキュラムの全般的な見直しと改革を行う作業に着手する。とくに7コース・8プログラム制や科目のナンバリング等について、履修選択の多様性を保持しつつ、学生にとって学修目標がより明確になるような、カリキュラムの改革と体系化を検討する。またカリキュラム改革の方向性が定まったあとに、将来の人事構想についても検討する予定である。具体的な課題としては、GPCA活用の推進を検討し、2016年度に導入する基礎演習セメスター化の実施状況の評価を行う。

### III 自己点検・評価

#### 1 教員・教員組織

##### 【2016年5月時点の点検・評価】

##### （1）点検・評価項目における現状

#### 【教員像および教員組織の編制方針】（2011年度自己点検・評価報告書より）

社会学部の理念・目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーを理解し、カリキュラム・ポリシーに沿って学生を指導し、学生たちの自己探求と社会問題への取り組みを多様な形で促進・媒介・指導することのできる教員を求めます。

また教員組織の編制方針は、本学部のカリキュラム・ポリシーに従って、学生への教育責任を果たすことができるよう、教育課程を構成する3段階（第1期から第3期）において、各専任教員がその一翼を担える仕組み作りを行なう。

具体的には以下のとおりである。

- ・第1期である学部教育への入門期では、各学科入門科目群は原則として専任教員が担当する。その要である基礎演習担当は原則として開講科目数の半分以上を専任教員が担当する。
- ・第2期では、7コースとプログラムのカリキュラムの中心は、可能な限り専任教員が担当する。また専門演習である演習1と演習2は専任教員が担当する。
- ・大学生生活の総仕上げである第3期では、とりわけ卒業論文作成の指導を実質的内容とする演習3は専任教員が担当する。

#### 1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい  いいえ

【根拠資料】 ※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

#### 【一般規則】

- ・専任教員招聘規則
- ・専任教員招聴特例措置申合わせ事項
- ・研究助手の採用

<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募実施細則</li> <li>・専任教員の身分昇格、昇格基準</li> <li>・法政大学名誉教授規程</li> <li>・兼任講師委嘱基準</li> </ul> <p>【採用・昇格の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求める教員像および教員組織の編成方針</li> <li>・視野形成科目とキャリア教育に関する将来構想委員会・答申</li> <li>・人事構想委員会答申</li> </ul> <p>【2015年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公募資料</li> <li>・教授会議事録（新規採用 2015. 5. 26）</li> <li>・教授会議事録（昇格人事推薦 2015. 12. 8）</li> </ul>	
②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。</p> <p>【学部執行部】学部長（1名：全体統括）、主任（2名：教務・人事主担当＋入試主担当）、副主任（1名：学生生活担当）</p> <p>【学部内の基幹委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務委員会（学部長、主任、教務委員で構成され、教務事項全般の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> <li>・外国語教育委員会（外国語科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> <li>・調査実習運営委員会（調査実習科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> <li>・メディア実習運営委員会（メディア実習科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> <li>・情報教育委員会（情報教育科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> <li>・FD委員会（教育改善のためのFD事業の検討・実施・評価等を行い、教授会に提案・報告する）</li> </ul> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種委員一覧</li> </ul>	
③教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>（～400字程度まで）※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。</p> <p>学部専任教員のうち8割近くが学部と大学院の双方に関与しており、大学院教育との連携は密になされている。また、大学院執行部と学部執行部の意思疎通も適宜行っており、双方の連携が図られている。</p> <p>大学院への進学を希望する学部生に対しては、内部進学者向けの大学院入試を行い、学部から大学院への一貫した教育と相互の協働を図っている。また、「外書講読」や「原典講読」といった一部科目については学部と大学院の「合併開講」としており、学部と大学院が相互に連携しながら、学部生・大学院生双方の教育にあたっている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度 社会学部履修要綱</li> <li>・2016年度 大学院履修要項</li> </ul>	
1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	
①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>（～400字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>現行カリキュラムは、教授会構成員の専門性を最大限発揮できるよう、その構築段階から組織的に設計されてきた。また、教員の転出、退職に伴う新任採用においても、カリキュラムの維持発展を第一に考えて行っており、カリキュラムと教員組織の対応関係は整合的である。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求める教員像および教員組織の編成方針</li> <li>・視野形成科目とキャリア教育に関する将来構想委員会・答申</li> <li>・人事構想委員会答申</li> </ul>	

2015 年度専任教員数一覧

(2015 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
社会政策科	15	5	2	0	22	12	6
社会	17	8	2	0	27	15	8
メディア社会	12	5	0	0	17	12	6
学部計	44	18	4	0	66	39	20

専任教員 1 人あたりの学生数 (2015 年 5 月 1 日現在) : 47.3 人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。  はい  いいえ

【特記事項】 (~200 字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

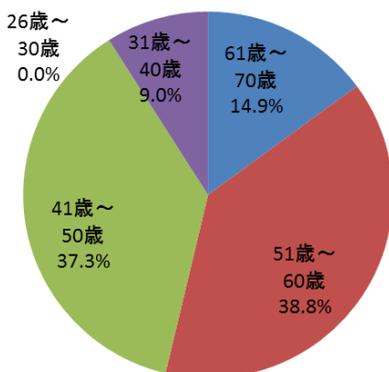
・特になし

年齢構成一覧

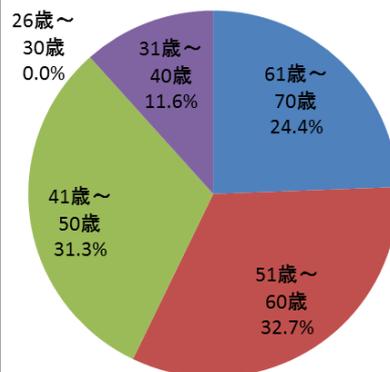
(2015 年 5 月 1 日現在)

年度\年齢	26~30 歳	31~40 歳	41~50 歳	51~60 歳	61~70 歳
2015	0 人 0.0%	6 人 9.0%	23 人 37.3%	24 人 38.8%	13 人 14.9%

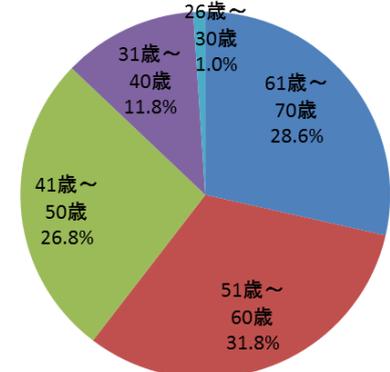
年齢構成比  
(2015年度社会学部)



年齢構成比  
(社会学部過去5年平均)



年齢構成比  
(2015年度全学部平均)



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。  はい  いいえ

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・専任教員招聘規則
- ・専任教員招聴特例措置申合わせ事項
- ・研究助手の採用
- ・公募実施細則
- ・専任教員の身分昇格、昇格基準
- ・法政大学名誉教授規程
- ・兼任講師委嘱基準

②規程の運用は適切に行われていますか。  はい  いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】 ※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等 (非公開) を添付することでも可。

- ・新任教員の募集については、原則公募方式とし、教授会での採用方針や募集方法について十分な議論を行っている。免職については、他校への転出による自己都合退職や定年退職以外で、審議を必要とするような事案は生じていない。
- ・昇格については、資格を有する教員の申請によって、常設の昇格推薦委員会においてその適切性を判断した上で、さらに専門に近い教員による審査委員会を設置して研究業績等を十分に審議し、教授会の承認を得ることにしている。

1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

A  B C

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・学部 FD 委員会が、常設の基幹的な委員会として原則隔週で開催され、基礎演習の向上（教育内容の標準化等の検討）、専門演習の向上（学部研究発表会の運営等）、実験的授業などについて検討しているとともに、学部独自の大規模授業アシスタント・学習サポーター制度を運用することで各教員の FD 活動を支援している。この委員会が、執行部、教務委員会、質保証委員会とともに学部 PDCA サイクルの一翼を担っている。
- ・個々の教員については、在外研究、国内研究・研修制度、学会出席への補助などによってその研究活動を援助することで、教員の教育研究にかかわる資質の向上を図っている。
- ・原則、全科目を教員相互の授業参観可としているほか、複数の教員が連携する授業では互いに授業方法について意見交換するなどして、授業の質的向上に努めている。
- ・基礎演習、外国語関連科目（英語及び諸外国語）、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を開き、授業改善のための情報交換を行っている。

【2015 年度の FD 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

・FD 委員会

【開催日】4月7日、4月21日、5月12日、5月26日、6月9日、6月23日、7月7日、7月21日、9月22日、10月13日、10月27日、11月10日、11月24日、12月8日、12月22日、1月12日、1月26日、2月23日、3月8日、3月15日

【場所】社会学部棟 8 階会議室 B

【テーマ・内容】Ⅰ. 授業支援（大規模授業アシスタント・学習サポーター、ゲスト講師）、Ⅱ. 学部研究発表会（運営方針、スケジュール・発表内容、課題・評価）、Ⅲ. ゼミ選考プロセス（専門演習紹介パンフレット、ゼミ紹介 Weeks、ゼミ選考プロセスについての評価）、Ⅳ. その他（基礎演習の改革、FD 推進センターとの連絡調整）、Ⅴ. 今後の課題（ゲスト講師制度の改正に伴う課題、学部研究発表会における運営課題、FD 活動の情報共有のための実践的取り組み）

【参加人数】FD 委員 6 名

・基礎演習担当者懇談会

【開催日】(1)7月14日、(2)12月15日

【場所】多摩総合棟 5 階第一会議室

【テーマ・内容】(1)春学期の学生の様子について、基礎演習の今後のあり方について (2)今年度の学生の様子について、2016 年度基礎演習のセメスター化とその運用について

【参加人数】(1)30 名、(2)34 名

・外国語関連科目担当者会議

【開催日】3月29日

【場所】多摩総合棟 5 階第一会議室

【テーマ・内容】社会学部語学カリキュラムについて、2015 年度授業のふり返り、2016 年度クラス規模について

【参加人数】26 名（専任 6 名＋兼任 20 名）

・情報教育関連コース・プログラム会議

【開催日】9月29日

【場所】多摩総合棟 4 階第三会議室 A

【テーマ・内容】2015 年度導入新カリキュラム進捗状況、新カリキュラム進行にともなう兼任講師の担当コマ移行、2016 年度の新入生にむけての情報教育の趣旨・目的の周知、情報教育科目と情報デザインプログラム科目群の広報と将来構想

【参加人数】6 名（専任 6 名）

・調査実習運営委員会

【開催日】4月3日、9月29日、11月17日、12月2日、12月24日、1月12日、3月23日

【場所】社会調査室、多摩総合棟 5 階多目的ルーム（11 月以降の会議はメールで持ち回り）

【テーマ・内容】（4 月 3 日）2014 年度実習のふり返り、2015 年度実習運営、2016 年度実習担当者、（9 月 29 日）社会調査教育の未来構想、コース・プログラムガイダンス担当者、実習運営、（11 月 17 日）次年度社会調査士科目認定申請、（12 月 2 日）次年度社会調査士資格申請に関する掲示、（12 月 24 日）2016 年度実習の開講科目と担当者、社会調査士資格申請手続き、2015 年度予算執行、（1 月 12 日）2015 年度社会調査士資格申請希望者への指導、（3 月 23 日）2016 年

<p>度科目認定申請認定結果、実習概要報告書</p> <p>【参加人数】専任教員 8～10 名</p> <p>・体育科目担当者懇談会</p> <p>【開催日】(1)7月17日、(2)1月8日</p> <p>【場所】多摩総合体育館 2階講師室</p> <p>【テーマ・内容】(1)春学期授業のふり返り、秋学期にむけての課題整理、(2)秋学期授業のふり返り、次年度にむけての課題整理</p> <p>【参加人数】(1)13名（専任2名＋兼任12名）、(2)14名（専任1名＋兼任13名）</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2015年度 FD 委員会報告書</p>
---

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

社会学部では採用や昇格など人事に関する規程や内規、申し合わせ事項が制定されており、また学部作成の「求める教員像および教員組織の編制方針」によって教員に求める能力・資質等が明らかにされている。新任教員人事は原則公募方式で行われ、また昇格人事は昇格推薦委員会、審査委員会、教授会の順で審査・承認のプロセスが採られており、適切に運用されていると評価できる。

社会学部の教員組織は現行のカリキュラムに整合する形で構築されており、また十分な教員数が確保されているが、教員 1 人あたりの学生数が多い点は改善されるのが望ましい。教員の年齢構成は全学部平均に比べて、バランスの良い構成となっている。今後もこのバランスが維持されることが望ましい。さらに、学部と大学院の連携が考慮されていると評価できる。

社会学部では学部執行部と教務委員会が中心となり、また学部内の基幹委員会としてさまざまな組織が設けられ、それぞれが役割を果たしている点は評価できる。なかでも FD 委員会は原則隔週で開催され、授業改善のための教育実践事例の収集を行うなど、活発な活動がなされている点は高く評価できる。

2 教育課程・教育内容

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

学士資格に相応しい深さを備えた専門教育と、幅広い知識と総合的な判断力を育てる教養教育を並行して学修できるように、次のような指針のもと教育課程を編成する。

- ・＜4年間一貫教育＞：大学4年間を一貫した体系のなかで捉える。
- ・＜3つの科目群＞：授業科目を、「共通基礎科目」「入門科目」「専門科目」という3つの科目群に体系的に整理する。
- ・＜3つの教育段階＞：3つの科目群を、「入門期」(1年次)、「能力形成期」(2～3年次)、「総仕上げ期」(4年次)という3つの教育段階に沿って段階的に編成する。
- ・＜7コース・8プログラム制＞：「専門科目」を、特定の専門分野あるいは対象領域によって整理した「コース」と、研究方法や表現ツールによって区分した「プログラム」に体系的に分類する。学生は、「主専攻」(特定のコース)と「副専攻」(特定のプログラムあるいはコース)を主体的かつ計画的に組み合わせ、それらコースやプログラムの科目を履修することで、自らのニーズに沿いつつ専門性を高めていく。

<p>(7 コース=各学科とのゆるやかな連携関係)</p> <p>1. 社会政策科学科：環境政策、企業と社会、コミュニティ・デザイン、国際社会</p> <p>2. 社会学科：コミュニティ・デザイン、人間・社会、メディア社会、国際社会</p> <p>3. メディア社会学科：メディア社会、メディア文化、国際社会</p> <p>(8 プログラム=全学科)</p> <p>①政策リテラシー、②公務員、③社会学総合、④社会調査、⑤情報デザイン、⑥メディア制作、⑦Advanced English、⑧諸外国語中級</p> <p>・&lt;少人数教育&gt;：「共通基礎科目」「入門科目」「専門科目」の学修とあわせ、1年次の基礎演習と2年次以降の専門演習において、少人数での教育を徹底する。</p>		
<p>2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>		
①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。</p> <p>本学部は、大学4年間を一貫した体系で捉えるという指針のもと、学士資格に相応しい深さを備えた専門教育と、幅広い知識と総合的な判断力を育てる教養教育を並行して学修するようカリキュラムを編成してきた。2014年からは「4年間の一貫教育」「3つの科目群」「3つの教育段階」「7コース・8プログラム制」という基本指針を基軸に、カリキュラムの順次性・体系性をより明確化した。</p> <p>授業科目は、3つの科目群(共通基礎科目・入門科目・専門科目)に体系的に整理され、さらに入門期(1年次)、能力形成期(2～3年次)、総仕上げ期(4年次)という3つの教育段階に沿うよう構成されている。入門期中核的科目である「基礎演習」は専門教育への導入としての位置づけを積極的にもち、選択科目だが履修率は95%に達している。能力形成期・総仕上げ期は、卒業論文執筆をゴールとする「専門演習」と、そのための専門性を学生自らの計画と選択により構築する「7コース・8プログラム制」とで、学修の完成を図っている。</p> <p>2006年度導入の「7コース・8プログラム制」を、体系性と専門教育の質的向上および学生の自主的研究促進のため、2014年度にコース選択における専門性を強化した。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2016年度 社会学部履修要綱</p>		
②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>「共通基礎科目」のなかの「視野形成科目」群は、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を育てるという目的を達成するため、「人文科学系科目」(A群)や「国際・社会科学系科目」(C群)に加えて、「自然科学系科目」(B群)についても専任教員が担当する科目を配置し、専門教育と相互に補完しあえるような教養教育の充実を図っている。また、2014年度には、ワーク・ライフバランスを重視した人間形成という意味でのキャリア形成を促すことを目的とした「キャリア形成系科目」(D群)を新設した。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2016年度社会学部履修要綱</p>		
<p>2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p>		
①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>専門科目について、専門分野・対象領域による科目群(「コース」と、研究方法・分析/表現スキルによる科目群(「プログラム」)からなる2種の科目体系を準備している。学生に「主専攻」(特定のコース)と「副専攻」(特定のプログラムまたはコース)を主体的・計画的に選択させ、当該科目群の科目を履修させることで、各学生のニーズに沿って専門性を高める仕組みを提供している。</p> <p>1～3年次における留級者はおおむね5%前後にとどまっており(4年次卒業保留は10%強)、大半の学生が先に述べた「3つの教育段階」を順調に進んでいる。また、学生の学修能力の最終到達度を示す指標ともいえるべき「演習3(卒業論文)」の履修率は、毎年度、7割を超えている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2016年度社会学部履修要綱</p>		
②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B C

(～400 字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

初年次教育は2つに分かれる。1つめは、専門教育への導入と、スタディー・スキルや能動的な学びへの態度転換を目的とする「基礎演習」である。2つめは、基本的な専門知識の修得を目的とする学科入門科目およびコース入門科目である。

キャリア教育は、「職業社会論」、実務経験のある教員による「インターンシップ」、キャリアセンターと合同でおこなう「キャリアデザイン論」、学科横断的な専任教員の参加による「社会を変えるための実践論」が開講されている。これらの試みを体系的に位置づけるために、「共通基礎科目」の「視野形成科目」の中に「キャリア形成科目」(D群)が2014年度から設置されている。就職活動への意識付けにとどまらず、社会での働き方や生き方を考えるという視点も本学部独自の特徴となっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016 年度社会学部履修要綱

③学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

A  B C

(～400 字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

学生の国際性を涵養するために、3学科共通で選択できる主専攻として「国際社会コース」を設置している。このコースを選択する学生には、「Advanced English Program」または「諸外国語中級プログラム」の履修を義務づけ、国際性の基礎となる語学力の向上を促している。また大学の派遣留学や短期研修・インターンシップなどへの積極的な参加を推奨するとともに、社会学部独自でもアメリカ・カナダ・中国の大学で学ぶSAプログラム(1 Semesterおよび2 Semester)を実施している。SA留学経験者の帰国報告会は、学生に対して大きな刺激となっている。また海外からの留学生同士、あるいは日本人学生との交流イベントも実施されており、身近な国際交流体験として、多くの学生の参加がある。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016 年度 社会学部履修要綱
- ・2016 年度 SA パンフレット

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2016 年度より、基礎演習を Semester 化するとともに、初年次学修内容の標準化を図るべくシラバス執筆ガイドラインを設定した。	

## (3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・7 コース 8 プログラム制の自由度の高さは複雑さを生む可能性がある。ガイダンスや履修相談で対応してきたがより効果的な学修のシステムを検討するために、教学改革・人事構想委員会を2016年度に設置した。
- ・基礎演習 Semester 化により生じた変化をフォローアップする予定である。

## 【この基準の大学評価】

社会学部では「4年間の一貫教育」、「3つの科目群」、「3つの教育段階」、「7コース・8プログラム制」との基本指針を明確に打ち出し、カリキュラムの順次性や体系的が確保されている点は高く評価できる。その一方で、これらのカリキュラム体系は複雑であることから、カリキュラムマップで視覚化して分かりやすくする工夫や、履修指導においてより丁寧な説明を行うことなどによって、さらなる配慮が求められる。その点において、2016年度から設置された教学改革・人事構想委員会において積極的な議論が展開されていることから、来年度以降に向けての改善を期待したい。

加えて、「共通基礎科目」の中に「視野形成科目群」を設け、多様な諸科目を配置している点は評価できる。また、初年次教育も適切に提供されていると評価できる。特に、選択科目の「基礎演習」は履修率が95%に達しており、評価できる。「演習3(卒業論文)」の履修率は7割を超えており、そのうちの9割程度が卒論を提出するという点も高く評価できる。さらに、キャリア教育においては、「共通基礎科目」の「視野形成科目群」の中に「キャリア形成科目」を設置し、適切に提供されていると評価できる。

さらに、どの学科でも主専攻として専攻できる「国際社会コース」を設置し、学部独自のSAプログラムを提供し、報告

会や交流イベントを実施している点など体系的に国際性を涵養するための教育内容が提供されていることも高く評価できる。

### 3 教育方法

#### 【2016年5月時点の点検・評価】

##### (1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A B C
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務委員会を中心とした履修登録期間（4月）の全学年対象「教員による履修相談会」（複数日）</li> <li>・成績不振学生を対象とする教員による個別面談（2015年度より）</li> <li>・各コース・プログラムの代表者によるコース・プログラムガイダンス（11月末～12月初旬）</li> <li>・主専攻・副専攻選択時期（12月上旬）の1年生対象「教員によるコース・プログラム選択相談会」（複数日）</li> <li>・基礎演習及び専門演習担当教員による学生への応談（随時）</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2016年度教員による履修相談会」の通知掲示</li> <li>・「2015年度コース・プログラムガイダンス」の通知掲示</li> <li>・「2015年度コース・プログラムガイダンス」配付資料と掲示</li> </ul>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	A B C
<p>（～400字程度まで） ※取り組み概要を記入。</p> <p>本学部では、1年次に基礎演習・2年次以降は専門演習が設置されており、各演習の担当教員は、基礎演習では大学への定着を含めた学習指導、専門演習では3年間の継続的な指導により可能となるきめ細やかな学習に関わる助言と支援を精力的に実施している。大学院進学など、アカデミックなニーズの高い学生に対しては、演習だけでなく、各学科で開設される実習科目や特殊講義でも教員が相談に応じている。そして、全教員がオフィスアワーを設置し、授業の受講者か否かに関わらず、学生のニーズに応じた学習指導を行っている。</p> <p>2015年度より、成績不振学生に対して教員による個別面談を実施し、学生が抱える問題の把握と解決に努めている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度 社会学部講義概要</li> </ul>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	A B C
<p>（～400字程度まで） ※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスの「授業時間外の学習」項目の記載を徹底させる一方で、具体的な実践については各教員の創意工夫と試行錯誤を尊重している。授業時に配布・回収する学生からの「リアクション・ペーパー」に対する次回授業内での回答を通じた到達度の確認や、授業外になされる双方向的なやりとり（質問・コメント）の重視、学生に与えた課題に対する解答を元にした授業展開、授業支援システムの予習・復習のための積極的活用など、その実践は多岐に展開されている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。	A B C
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会を変えるための実践論」：複数教員による集団指導と、学生スタッフの授業運営への参加。</li> <li>・「社会政策科学への招待」「社会学への招待」「メディア社会学への招待」：教員による集団指導。</li> <li>・「社会調査実習」「政策研究実習」：社会調査の企画・設計から、実査、分析、報告書執筆・刊行にいたる全過程の体験・修得。</li> <li>・「映像制作実習」：映像作品の企画、取材、制作、発表にいたる全過程の体験・修得。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度 社会学部講義概要</li> </ul>	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい いいえ

<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・執行部と教務委員会による全シラバスチェックを実施し、修正が必要と認められた教員への連絡を実施している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度 社会学部講義概要</li> </ul>	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業改善アンケートへの学部独自項目「授業はシラバスに沿って行われていましたか」の追加。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業改善アンケート（社会学部）</li> </ul>	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・執行部と教務委員会による、GPCA データ・評価比率データを活用した成績分布の検証（この結果、大半の教員がシラバスの「成績評価の方法と基準」項目に厳格かつ適切な基準を明記し、適切に成績評価と単位認定を行っていることが確認されている）。</li> <li>・「A+」評価に関する学部独自基準（講義科目は「上位 10%程度」、「演習」「外国語」等の少人数科目は「上位 20%程度」を上限とする）の設定による、評価の厳密性の確保。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A+評価基準について（社会学部独自基準）</li> </ul>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>（～400 字程度まで） ※取り組み概要を記入。</p> <p>編入学時における他大学等における既修得単位の認定は、学部が設定する基準（「編入学者および転籍・転部者の単位認定・換算基準」）に基づき実施している。具体的には、教務担当教授会主任と事務課職員が双方のシラバスを照合し、内容が適合すると思われる本学部開講科目の有無を確認の上、定められた単位数の限度内で単位認定する認定原案を作成し、これを教務委員会で検討・承認後、教授会での確認・承認を経て認定を確定させるという手続きをとっている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・編入学者および転籍・転部者の単位認定・換算基準</li> </ul>	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>（～400 字程度まで） ※取り組み概要を記入。</p> <p>厳格な成績評価を実施するために、本学部では「A+」評価について、講義科目については「上位 10%程度」、「演習」「外国語」等の少人数科目については「上位 20%程度」を上限とする学部独自の基準を設けている。</p> <p>このほか、各科目、ならびに「3つの科目群」及び「3つの教育段階」ごとに GPCA データを集計し、これを教員にフィードバックするとともに、集計結果に基づき成績評価の適切性に関する検証を執行部と教務委員会で実施している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A+評価基準について（社会学部独自基準）</li> </ul>	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①教育成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（各学期末）</li> <li>・英語科目：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（春学期半ば）</li> <li>・諸外国語・情報実習科目：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（年度末）</li> <li>・調査実習科目：全担当者による来年度科目の打ち合わせ（秋学期開始時）、調査実習実施に付随する問題の共有と解決（随時）、報告書の回覧（年度末）</li> <li>・学科・コース・プログラム会議での情報交換（秋学期開始時）</li> </ul> <p>こうした機会を通して、教育成果を科目担当教員間で共有し検証するよう努めている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2015 年度春（秋）学期・基礎演習担当教員懇談会の開催について」</li> <li>・「2015 年度 諸外国語科目担当者打ち合わせ会 記録」</li> </ul>	

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A	<b>B</b>	C
<b>【利用方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・各科目の結果のフィードバックにもとづき、各教員による教育内容の改善等で活用している。 ・シラバスに、「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」という項目を設けている。			
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし			

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>各教員の授業方法をより広く共有する仕組みについて、教員の相互参観の一層の推進を含め、FD 委員会で検討を進める予定である。</li> <li>授業改善アンケートの回収率向上のために、学生への呼びかけをより一層強化する予定である。</li> </ul>
--

**【この基準の大学評価】**

<p>社会学部の学生の履修指導については、「教員による履修相談会」や「教員によるコース・プログラム選択相談会」などが実施されており、適切に行われていると評価できる。また、学生の学習指導については、基礎演習や専門演習等の担当教員が助言や相談に応じる形で行われ、2015 年度からは成績不振者を対象とする個別面談も実施されており、適切に行われていると評価できる。</p> <p>学生の学習時間を確保するための方策については、各教員が試行錯誤しながらも創意工夫のうえ実行しているが、今後は学部としての取り組みも期待される。</p> <p>シラバスチェックや成績評価と単位認定の適切性については、執行部と教務委員会によって検証が行われる体制が採られている。特に後者では成績評価に関する社会学部独自の基準が設定され、教員間の共通認識がつけられており、兼任講師にも周知しており、その基準の下で適切性が確認されている点は高く評価できる。</p> <p>また、いくつかの授業において新たな授業形態が導入されている点や、演習科目や語学科目、調査実習科目ごとに担当者で懇談会を実施し、教育方法の改善に取り組んでいる点についても評価できる。</p> <p>授業改善アンケート結果の利用については各教員に委ねられているが、学部として組織的には取り組まれてはいないようである。この点は、早急に組織的な対応が望まれる。</p>
---

4 成果

**【2016 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

<p><b>【学位授与方針】</b></p> <p>本学部では全学科にわたり、次のような能力を持った学生を育成する方針である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な社会問題に積極的に関心を持ち、自ら課題を設定し、それらに関する知識・データを科学的な方法によって幅広く収集・分析できる学生。</li> <li>社会問題の探求において、つねに「人間とは何か」「人間はどうあるべきか」という人間論的関心を持つ学生。</li> <li>社会問題の探求とその成果の表現（卒業論文など）に必要な、論理的思考力、情報処理などのデータ整理力、外国語の運用能力などが身につけている学生。</li> </ul> <p>また、学科ごとには、次のような能力を持った学生を育成する方針である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>社会政策科学科では、経済学や社会学など社会科学の諸分野を複合的に用いて、現代社会の政策課題を発見し、自ら政策を構想・立案したり、現行の政策を分析・批判したりする能力を身につけるようになること。</li> <li>社会学科では、社会学の基礎的な方法を身につけ、かつ、哲学、歴史学、文学、心理学などの人文諸学を踏まえて、現代社会の問題解決に自らの知識を応用できるようになること。</li> </ol>
---

3. メディア社会学科では、コミュニケーションに関する社会学理論やジャーナリズムの理解を踏まえたメディア現象への積極的な探求心と、コンピュータや映像機器を用いた機動的な分析力・創造的な表現力を持つようになること。

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果を測定していますか。

A  B C

(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。

演習の履修率、進級・卒業率、卒業論文提出率など教育成果に関する基本的データについて、執行部・教務委員会及び教授会で情報共有し、検討している。例えば、学生の学修成果の最終的な指標ともいえるべき「演習3(卒業論文)」の履修率は毎年度7割を越えており、専門演習の履修促進という本学部の取り組みが一定の成果を上げていることが確認されている。今後、GPAの有効活用など学習成果を測定するための他の方法も検討する予定である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類等】※箇条書きで記入。

- ・データの把握主体：執行部
- ・把握方法：成績分布については、GPAを指標としてデータを構築・分析。進級・卒業状況については、学部・学科・学年単位で集計。
- ・データの種類：学生別GPAをケースとした個票データ、学科別・学年別・学部全体の集計データなど。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

③学習成果を可視化していますか。

A  B C

【学習成果可視化の取り組み】※取り組みを箇条書きで記入(取組例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。

- ・「学部研究発表会」での専門演習の研究成果の可視化・発信(毎年11月)。
- ・専門演習におけるゼミ論文の執筆奨励と「ゼミ論文集」「報告書」の公開。
- ・調査実習科目における「報告書」の刊行・配布。
- ・メディア実習科目における作品の公開。
- ・優秀な卒業論文を選定した「優秀卒業論文集」の刊行。
- ・そのほか、授業支援システムを利用したレポート・ゼミ論文等の公開やインターネットを利用した成果物の発信など。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2015年度優秀卒業論文集
- ・2015年度社会調査実習報告書(開講クラス別に刊行)
- ・2015年度政策研究実習報告書(開講クラス別に刊行)

4.2 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。

①学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法、データの種類等】※箇条書きで記入。

- ・卒業時に学部独自のアンケートを実施し、就職・進学状況を把握している。
- ・就職・進学状況については、キャリアセンターからの情報を含め、教授会で共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・GPAの有効活用など、学習成果を測定するための他の方法を検討する。
------------------------------------

**【この基準の大学評価】**

社会学部では演習の履修率や進級・卒業率、卒業論文提出率など学生の学習成果に関わる基本データを示し、学部執行部と教務委員会、教授会で情報共有し、検討されている点は評価できる。また、学生の学習成果を研究発表会や論文集、報告書の発行・公開など、さまざまな方法で可視化が図られている点は高く評価できる。

成績分布や進級などの状況については、GPA のデータを個票データとともに学部・学科・学年単位で集計し、執行部によって把握され、教授会で配布・説明することによって情報共有がされている。また、学生の就職や進学状況については卒業時のアンケートやキャリアセンターからの情報を把握し、教授会で共有されている。

学習成果に GPA を活用する点については、今年度は成績優秀者表彰・懇談会が行われ、また成績不振者を対象に個別学修相談会が実施されている点は評価できる。

**5 学生の受け入れ**

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

**【学生の受け入れ方針】**

全入学経路にわたり、学部教育理念である自己探求と社会問題への取り組みへの共感・理解と意欲とを合わせ持ち、一定以上の学力を身につけている学生を受け入れる。

具体的には、「国語」と「英語」の試験科目を通して総合的基礎学力を、また「日本史」「世界史」「地理」「政治・経済」の社会関連の諸科目もしくは「数学」を通して、社会問題に取り組んでいく際に必要な基礎知識と興味関心を推し量る。

一般入試以外では、大学入試センター試験、推薦入試（指定校、スポーツ）、転・編入試、留学生入試、付属校からの推薦などを採用して、多様な学生を受け入れ、学部の活性化を心がけている。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。 はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

執行部を中心に、入学センター提供の資料や助言も加え入学定員・収容定員の充足状況を年度毎に検証している。従来、学部全体で問題となる超過・未充足はとくに見られなかったが、2016年度は定員に対する入学者の割合が23%超過となった。基礎演習や外国語クラスなどの増コマなどの対応を速やかに実施したが、次年度の受け入れについて適切な方針を議論することとしている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
・特になし

定員充足率（2011～2015年度） （各年度5月1日現在）

種別\年度	2011	2012	2013	2014	2015	5年平均
入学定員	700名	700名	742名	742名	742名	
入学者数	773名	725名	733名	773名	736名	
入学定員充足率	1.10	1.04	0.99	1.04	0.99	1.03
収容定員	2,800名	2,800名	2,842名	2,884名	2,926名	
在籍学生数	3,290名	3,242名	3,223名	3,183名	3,119名	
収容定員充足率	1.18	1.16	1.13	1.10	1.07	1.13

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。 A B C

**【検証体制および検証方法】** ※箇条書きで記入。

- ・学生募集及び入学者選抜については、結果を教授会で報告・議論し、執行部を中心として検証している。とくに入試委員会での議論を受け、入学センター提供の資料や助言をもとに年度毎に検証し、教授会の意見も受けて、執行部を中心として次年度の方針を決めている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・留学生入試について、渡日前入試の導入に向けての検討を進めた。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

<p>社会学部の入学定員や収容定員の充足状況を年度ごとに検証することで適切に対応されている。その結果、入学定員充足率はおおむね適切な範囲で推移し、収容定員充足率も改善しつつあると考える。ただし、2016 年度は大幅に超過する結果となっているので、次年度以降は適切な対応が望まれる。</p> <p>学生募集および入学選抜の結果についても、執行部ならびに教授会で検証・報告・議論がなされており、それを基に次年度の方針が決められている点は評価できる。また、留学生入試の渡日前入試の導入を検討するなど、学生募集の見直しも行われている点も評価できる。</p>
--

6 学生支援

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。</p> <p>・卒業生、卒業保留者、留年者、休・退学者の状況については、執行部、教務委員会、教授会という三つのレベルで把握し、その内容を共有している。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
<p>【成績不振学生への対応体制および対応内容】※箇条書きで記入。</p> <p>・学生の事情に応じた個別的な対応として、演習を通じた学生への働きかけを適宜行っている。基礎演習および専門演習の担当教員が、必要に応じて学生に接触し、学習への動機づけをつくり出すべく対応している。</p> <p>・学部による制度的な対応として、2015 年度から「個別学修相談会」を実施している。前年度の GPA を通算して 0.8 以下かつ進級要件を満たしていない学生を対象として、保証人宛てに面談の通知を行った。2015 年度の実績として、7/1 から 7/14 の期間に、14 名の学生（6 名は保証人も同席）に対して教員 1 名と職員 2 名が履修に関する指導を行った。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
<p>(～400 字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>外国人留学生と教員が一堂に会する「留学生懇親会」を企画することで、修学支援を進めている。外国人留学生が交流して、互いに学生生活を支え合う非公式なネットワークづくりを促すと同時に、教員と歓談しながら様々な修学上の問題を相談できる機会を設けている。2015 年度の実績として、6/30 に「留学生懇親会」が開催され、20 名の外国人留学生と国際交流委員会・執行部の教員が参加した。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

社会学部の卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況については執行部・教務委員会・教授会で把握されており、情報共有が適切になされている。

成績不振者への対応については、演習の授業を通じて学生に働きかけがなされている点や、2015 年度から新たに「個別学修相談会」が実施されている点において大いに評価できる。「個別学修相談会」では、前年度の累積 GPA0.8 以下かつ進級要件を満たしていない学生が対象となっており、場合によっては保証人も同席で履修指導が行われており、高く評価できる。

また、外国人留学生の修学支援については、留学生と教員による「留学生懇談会」が開催され、相互のコミュニケーションを図り、修学上の相談ができる機会が設けられている点は高く評価できる。しかしながら、教員の参加が少ない点は、学部行事の重複をできる限り避けるようにして、参加可能な体制をつくることが望ましい。

7 内部質保証

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム(質保証委員会)を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2015 年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

【構成】学部専任教員 3 名

【開催日】(1)4 月 14 日、(2)4 月 28 日、(3)3 月 8 日

【議題】(1)2014 年度の年度末報告および大学評価委員会評価結果について、2015 年度の自己点検・評価シートの作成について (2)2015 年度自己点検・評価シート原案について (3)2015 年度の年度末報告について

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

社会学部では質保証委員会が設置され、年 3 回開催されており適切に運営されている。学部全体としての内部質保証という観点からは、教務委員会や FD 委員会、科目群の担当者委員会・懇談会などが活発に行われていることから、質保証委員会の役割を抑えるという社会学部の方式は一つの考え方である。

【大学評価総評】

社会学部では「4 年間の一貫教育」、「3 つの科目群」、「3 つの教育段階」、「7 コース・8 プログラム制」との基本指針の下、体系的かつ多様なカリキュラムを提供している点は高く評価されよう。また、個々の科目においても初年次教育やキャリア教育、教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する科目、国際性を涵養する科目などが充実している点も評価したい。そのような多様なカリキュラムの裏返しで学生にとっては分かりづらい側面があるが、この点は今年度から教学改革・人事構想委員会を発足させてカリキュラム改革に着手するとのことであるので、その成果を期待したい。

また、社会学部では学生に対する履修指導や学習指導、学生支援が多岐にわたり充実している点、そしてFD委員会を中心とした多くの取り組みがなされている点においても高く評価できる。ただし、現時点では、それぞれの取り組みによって得られる成果や情報が担当者など一部の教員に留まっている場合が多いように見られる。今後はこうした成果や情報を学部全体で共有できるようにし、それぞれの取り組みがさらに充実したものとなることを期待したい。